



広報しべちやは 700号を迎えました

昭和31年に「町政だより」として誕生した広報しべちや。皆さんの暮らしとともに歩み続け60年。広報しべちやは今号で700号を迎えました。

第1号の発行から700号まで、町民の皆さんに地域の話やお知らせをお届けしてきました。これからも広報しべちやは明るい話題を届けていきます。

700号までのあゆみ

200号 昭和49年10月



標茶中学校の新築工事が完了し、新しい校舎が表紙を飾りました。鉄筋コンクリートの3階建てで、町内では最も大きな建物だったそうです。
また、塘路ワカサギ祭りが塘路湖畔で行われ、約千人が集まり大いに盛り上がった様子も紹介されています。

100号 昭和40年9月



第24回町民運動会が開催され、白熱した大会の様子が表紙として紹介されました。当時、町民運動会は町民が交流する行事として最も大きな行事でした。この年は町民約2千人が参加し、町内8チームに分かれ選手と応援者が一体となり、熱戦を繰り広げました。

広報しべちや700号に寄せて

標茶町長 池田裕二

創刊から700号を迎えました。「町政だより」としてスタートしたのは、昭和31年、私どもが若かった頃、わが国はまだとても貧しく、コンピュータやインターネットの登場もかなり経ってからで、これほど短期間で飛躍的な発展を遂げ、平和で、1年中モノがあふれ、ひもじさを知らず、物的に豊かな生活を楽しむことができる時代が来るとは夢想だにしていまませんでした。

とりわけ情報関連のイノベーションは目覚ましく、インターネットが世界を変え、その利便性と処理能力は日進月歩で拡大と高速化が進んでいます。また最近では、自ら学習する人工知能が急速に進歩しており、かつて空想世界の産物でしかなかったことを、次々と現実に変え、または実現が近づいています。正直、そのスピードと汎用性の広がりには、戸惑いと共に漠然とした不安も覚えています。

私事ですが昨年から高齢者となり、思考もアナログ人間で、コップの容量はほぼ満杯、どちらかと言えば、過去の懐かしさの方が心地いいというのが、偽らざる心境であります。新しいモノへの興味や関心が無いわけではなく、大切なのは、情報の奔流に押し流されず、どうコントロールし、糧としていけるか、だと思っています。

広報の役割については申し上げるまでもありませんが、時代は変化を続けています。紙媒体としての広報が、これからどう変わっていくのか想像できませんが、この町で安心して暮らしていくために必要な情報を的確に伝え、後世への記録として残して行く使命は求められていくと思います。

伝えなければならぬ情報は、分かりやすく、活字や数字は少なく、グラフやイラスト、写真を多く、そして元気なお年寄りや子供たちの活躍の様子を、またみんなに知ってもらいたい身近な出来事や季節の移ろいなど、できるだけ広報を開いて笑顔になれる話題を紹介して欲しいと、お願いしています。

これからも「広報しべちや」の主役は町民なんだとの思いを大事に、一層の充実を図って参りますので、皆さまにはどうか、気のついたこと、ご意見、ご希望などお寄せいただけますよう、お願いいたします。

400号 平成3年6月



標茶小学校の児童らが「標小クリーン作戦」として清掃活動を行い、ごみ袋数十袋分のごみを拾った様子が表紙を飾っています。

そのほかに第5代標茶町長として就任した千葉健さんの就任のあいさつや町議会新議員の紹介が掲載されています。

300号 昭和58年2月



阿歴内公民館で開催された「母と子の料理教室」で、子どもたちが出来上がった料理を丁寧に盛りつけている姿が表紙で紹介されています。

また、町立図書館が完成し、開館に合わせ、閲覧室や視聴覚室などの施設内部が紹介されています。

600号 平成20年2月



成人式が行われ、大人としての一歩を踏み出した新成人の姿が表紙を飾っています。

このほか、韓国ソウル市で開催のスポーツ交流事業に、標茶中学校スピードスケート部が日本派遣団員として選ばれたことなどを紹介しています。

500号 平成11年10月



広報しべちゃ500号を記念し、これまでに発行された広報紙が表紙を飾っています。

また、標茶高校が総合学科へ転科を決定し、地域環境を活かした授業や生徒が興味関心を持つ体験的な授業など、教育方針を紹介しています。

**600号にて北海道知事から表彰され
広報紙に登場していただいた
館 定宣さん**



受賞した時の広報紙を今読み返すと懐かしい気持ちになります。シマフクロウが住みやすい環境を作ろうと、平成6年に虹別コロカマイの会を設立し、西別川流域の植樹・清掃活動をしてきました。受賞した時は、まさか受賞するなんて考えてもいなかったのが驚きました。

広報しべちゃは毎月届いたらすぐに読んでいます。自分の住んでいる町が何をやっているのかを知ることが、町民としての義務だと思って読んでいます。標茶をPRするには町民がまず標茶を知る必要があります。町民に知られていない行事がまだあると思うので、ぜひ広報に掲載して欲しいです。

**100号で広報紙について
町民代表として意見を述べた
田村 守さん**



当時、私は標茶高校を卒業した直後で広報担当の方から依頼を受け意見を書かせていただきました。この頃の広報紙は町から一方的な情報が掲載されていたので、町民の意見が反映された紙面が必要ではという内容を書きました。

広報しべちゃが届くと、毎月表紙から最終ページまで読んでいます。今後町民の皆さんに愛される広報紙になるには、町内で頑張っている方を紹介するなど、町民の皆さんが登場するような記事をもっと多く掲載すると、若い方からお年寄りまでが楽しめる広報紙になると思います。